



新風会
永田 光臣 議員

問 新庁舎建設の進捗について

Q 何事もやってみて初めて気づくことがある。庁舎建設は順調か。

A 大手庁舎の本館、別館解体は終了。本館の基礎杭（松杭）は当初計画した手法では完全に抜けず、新たな手法を試みる。併せて市役所近隣の井戸調査等を実施する。

Q 工法の見直しで費用の増加や工期に影響はないのか。

A 直接工事費で見ていた分から、費用は約600万円の増加が見込まれる。工期は遅れがないようにしたい。

問 高規格道路について

Q 国などへの働きかけもだが、機運を盛り上げるなど地元での努力も大事。市民も待ち望んでいる。出平―有明間の開通の見通しは。

A 県から示されていないが早期完成に向け県とともに鋭意努力する。

Q 市民が安全・安心に暮らすためや農業の振興につながる必要な道路。全線開通はいつか。

A 現時点では予想がつかない。今は有明町―瑞穂町間の事業認定を要望している。

問 産業の振興について

Q ジオパークなど本市の観光資源はどれくらいの効果を発揮しているのか。

A 年の観光入込客約117万人、延べ宿泊客約20万人、観光消費額約135億円。

Q 本市の農業産出額は。

A 約186億円。

Q 経済活性化には観光も農業も県外から外貨を稼ぐことが大事。外貨を稼ぐ産業を把握し振興を。JAは大根、人参で40億円売り上げている。大根選果機が更新時期。国の交付金を持ってきてほしい。

A 農業後継者の育成や圃場整備を広げていく考えの中で、選果機については十分検討させていただきたい。

【その他の質問項目】

◇市が管理する公園について



実践クラブ
北浦 守金 議員

問 県央県南クリーンセンターについて

Q クリーンセンターの特徴と評価はどうか。

A 1日300トンの処理能力があり、ダイオキシンの削減など諫早市、雲仙市、島原市、南島原市の一部で発生するごみを安定的に処理する施設として平成17年4月に稼働した。

Q 運営について、計画どおりにかず、裁判により決着した経緯がある。議会としても議論し、対策が必要と思うがどうか。

A 稼働当初トラブルが発生し、長期間の裁判で建設・運営会社との和解にこぎつけた。今後安定的かつ費用対効果が求められるなど、施設のあり方の検討が必要と認識している。

Q 瑕疵担保期間は何年でいつ切れるのか。

A 平成17年4月から32年3月までの15年間で、残り2年余りである。

Q 瑕疵担保期間までの取り組みとして、市単独での議論をする予定はあるのか。

A 4市の場で今後のあり方について、改修、新築、単独市での可能性を検討するにしても、施設の延命期間を設けなければブランクが生じる。広域環境組合としての考え方、本市としても一定の見解を求める必要があると認識している。

Q 当初からこれまでの本市負担金はいくらなのか。

A 平成11年度から負担金が始まり、昨年度までの実績は約76億円である。

Q 島原市独自でごみ処理施設をつくるべきだと思うがどうか。

A 単独で建設した場合、ごみ処理を年間1万7千トンとして24時間64トン処理可能な場合、施設建設費だけで約73億円かかり、年間維持費は3億2千万円と試算している。

【その他の質問項目】

◇地域おこし協力隊について
◇人口減少対策について